

三勲小だより

令和元年11月15日(金)



＜車いす卓球 岡紀彦選手との交流会＞

10月4日(金)に、スポーツ庁の「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」として、車いす卓球の岡紀彦選手が本校にお越しくださいました。

この事業は、「東京2020大会に向けて、オリンピック・パラリンピックへの市民の関心を深め、応援機運の醸成を図るとともに、スポーツの価値や効果の再認識を通じ、国際的な視野をもって世界の平和に向けて貢献できる人材育成を目指し、オリパラ教育の推進を図る。」という目的で行われており、この度、岡山市よりお話をいただいて実現したものです。

岡選手は病気のために9才の頃から車いすの生活となり、中学2年から卓球を始められました。国内では障害者卓球界初のプロ選手となり、ジャパンオープン・パラ選手権大会27回優勝、パラリンピック3大会連続出場という輝かしい業績を残されました。そして現在も、両大会でのメダル獲得を目標に活動されています。

総合的な学習の時間で福祉を学んでいる4年生との交流会では最初に講演をいただきました。車いすの生活になったけれどスポーツが好きなので何とか自分にできる競技はないかと考え、手先が器用なので卓球をすることに決めたことや、うまくいかなかったとしてもあきらめずに工夫して練習を続けたことなど卓球についてのお話に併せて、ドイツのホテルでのバイキングの時のエピソードから、どうすればよいか分からない時は何に困っているかを聞いてほしいということや、点字ブロックの上に物を置かないなど決められたルールをきちんと守るだけでも困っている人は助かるといったお話もしていただき、子どもたちは真剣な顔でお話を聞いていました。

岡選手は、どんな状態でも泣き言を言わずベストを尽くすことや今自分にできることは何かをいつも考えることの大切さなどもお話しくくださいました。

そして、講演の後は、岡選手と奥様のラリーや、卓球台の隅に置いたペットボトルのふたに球を見事に命中させたりペットボトルを倒したりする技を見せていただきました。その素晴らしい技に、子どもたちから大きな歓声が上がっていました。

また、その後は、一人ずつ岡選手や奥様とラリーしたりペットボトル倒しに挑戦したりして楽しい時間を過ごしました。

この交流会を通じて、子どもたちはオリンピック・パラリンピックへの関心を高めるとともに、共に生きるということや物事をあきらめずベストを尽くすことの大切さなどを学んだことだと思えます。

